



# PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

## 小さい命を守る

私は医者で、家内は医療技師です。私達夫婦には四人の成人した子どもがおり、一人の孫もいます。アメリカに住み、カトリック教徒でもあり、生命尊重グループに入って、夫婦そろって生命尊重を強い信念としております。

先日、今年は春の訪れが早かったので、今年になって始めて芝生の刈り込みをしている時でした。芝刈機を操作する私から遠からぬ所に小鳥がいて、羽毛を逆立てて、私を追い払おうと威嚇しているように見えた、少し近づいて良く見ると、鳥はわが家の庭のど真ん中に巣をつくり、卵を抱いているのです。木や茂みやその他もつと外敵から身を守るのに適した場所ではなく、芝生の真ん中で。私は巣を損なわないよ

うに注意深く芝を刈りましたが、巣の近くに行くと、親鳥は必ず私を脅したり、巣から離れるようおびき出したりと、思いつく限りのあらゆる手だてを講じます。巣の周りを刈り終わって、その場を離れると、親鳥は再び巣に戻って卵をあたたため始めたようでした。

私達はつがいの親鳥が交替で卵を抱いたり、巣を守ったりするのを観察しました。観察を始めて五日目に、強い風と大量の雨をもたらす強風雨がありました。数時間親鳥達がしっかりと卵から離れず、巣を守っている様子を見物してました。私達は彼らばかりと夜中そうしているのだらうと思いました。嵐は夜明けまでおさまる事なく吹き荒れ、寒い夜でした。しかし、嵐の去った朝の光の中、つがいの鳥は、依然としてそこにいました。

こういった親鳥達の様子を見ると沈思熟考せざるを得ません。まだ殻の中の小さな命を守るため、力を尽くし、自分達の命を危険にさらす事を顧みず、人間や自然の脅威に臆せず立ち向かいました。

アシジの聖フランシスコが、かつて人々に演説して、「生を受けた全ての生き物は彼らなりに父なる神に仕え、その力を認め、従う事を知っていて、その道において、あなたがた人間よりはるかに優れている。」

現代において、人類がどれだけ神の意志に忠実か、とりわけ中絶においてどうかと考える時、私は聖フランシスコの言葉がいかに的確なものであったかを確信せざるを得ないのです。

ウィルトン・

バージェロン医師

## 聖職者と

## プロ・ライフ活動

ミサの前、教会の入り口に立っていると、会報を手にした女性が、中絶の話題が出た時のために、これを読んでみるわ」と小声で話しかけてきた。

ミサで中絶に関する説教をしてから数日後、一通の手紙が届いた。差出人は例の女性ではなく、二人の信者からで次のような文面だった。「こんにちは。先ず初めに先週のお説教をありがとうございました。私も弟のポールも、とても感動しました。私達は17才と12才の子どもですが、生命の尊さについては知っているつもりでした。でも、あなたのお話を聞くまで、中絶はどんなものかよく理解していなかったのです。...(中略)もしよかったら、プロ・ライフ活動に

関する資料を送って頂けませんでしょうか。(中略)それでは又ミサでお会いしましょう。フランク神父様」

聖パウロも、御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くてもはげみなさい。

とがめ、戒め、はげまなさい。忍耐強く、十分に教えるのです」と述べている(テモテへの手紙2:4-2)生命の神聖さや中絶についての真実こそ神の使徒である聖職者が率先して説くべき事項である。

時々、教会では中絶など無縁だ」と言う人がいるが、果たしてそうだろうか。信者が世界の動きに無関心でよいはずがない。毎年、米国では百六十万、日本でも百万もの胎児が、中絶により生命を葬られていく、「生命を与えて下さった神」を信じるならば、神にまつわる問題、つまり中絶で毎年何百万もの命が奪われている事実

について、教会でも真剣に取り組むべきだ。聖書にも「神を信じると言いながら悪い行いを改めようとなないものを神は喜ばない」という言葉がある。(アモス書5:21-27イザヤ書1:10-7を参照)

例えば、近所に毎日のように八才の少年や少女を殺している病院があったとしたらあなたは教会にどんな対応を望むだろうか?人道的にみて、中絶によつて死ぬ胎児も、八才の子供も、人間には皆等しく生きる権利がある。聖職者こそ中絶について意見を述べ、信者に呼びかけて胎児を救う努力をし、母親達に中絶に代わる(殺さないですむ)方法を提言すべきなのに、なぜ黙っているのか?矛盾を感じずにはいられない。もちろん積極的

に取り組んでいる聖職者もいるが、大部分は何もしていないというのが実情だ。

「沈黙は最大の嘘」という諺がある。中絶を見て見ぬふりをするのはそんなに大騒ぎするような問題じゃないと声高に表明しているに等しい。教会が沈黙したままでは、中絶経験のある女性に向かつてあなたの傷は深くないし、それほど重大事ではない」と言っているようなものだ。

聖パウロは「ラッパがはつきりした音を出さなければ、誰が戦いの準備をしますか」(コリントの信徒への手紙14:8)と述べている。生命を賭けての戦いに、自分と敵とのどちらが勝つかという二者択一はない。プロ・ライフ派が勝つしかありえないのだ。

世界中の聖職者が勇気を出して勝利への道を突き進む時がやってきた。信者側も聖職者たちが中絶について躊躇する事なく意見を表明できるよう支援してほしい。  
フランク・パヴォン

## ドナの物語

「災いを転じて福となす」

ドナ・ワーナーはその夜、友達とロング・アイランドからニューヨーク行きの電車に乗りながら、自分分は両親の言いつけに背いていることを知っていました。教会に通う、親の目の行き届いた家庭に生まれ育つたドナは、世間知らずで純粋な15才の少女で、デートすらもしたことありませんでした。この夜初めて言いつけを破つて大都会で友達と遊ぼうと思ったのです。「初めは友達と一緒だったのですが、バスターミナルでトイレにいく途中仲間を見失ってしまいました。私達はバラバラになってしまった場合に備えて、あるビルの屋上を落ち合い場所に決めていました。それでビルの上上がった行つたのです。「誰も屋上にいませんでした。エレベーターで下りながら、ドナはこの静まり返った暗いビルの中に人がいるのかしらと思いました。「エレベーターがロビーに着く前に男が乗ってきました。私より年上のように見えます。男は私を見て、エレベーターが再び動き出すと、止まるのボタンを押しました。今でも覚えていますが、男の言った事は「エレベーターが壊れているみたいだ。」だけでした。そして、私をレイプしたのです。」

ドナはとにかく家に帰る事しか考えつきませんでした。友達を探そうとはしませんでした。誰にも会いたくなくつたのです。「私はとても罪悪感を感じていました。私はニューヨークにいるべきではなかったし、なぜか起こった出来事は私がした事に対

する罰であるというふう  
に感じていました。自分が  
とても汚れているように  
思え、家に帰って、誰にも  
その事を話さずに寝まし  
た。」

ドナは肉体的にも感情  
的にも傷ついていました  
が、レイプの事実を知られ  
る事を恐れていました。両  
親に非難されたり、周囲が  
信じてくれないのではな  
いかと恐れていたのです。  
それでトラウマを否定し、  
まるで何も起こらなかつ  
たかのように振る舞って  
対処したのです。「私はと  
てもうまく自分の感情を  
抑圧していました。それま  
でデートをした事もなく、  
男友達も少なかったので、  
彼らとの付き合いは特に  
変わりませんでした。男の  
子を避けていたのです。私  
は心の中にレイプされた  
思いを完全に閉じ込めて  
いましたが、あるきっかけ  
で封じ込めた感情があふ  
れ出してくる事もありま

した。ある夜家族と見てい  
た映画で女の子がレイプ  
されました。私は涙が止ま  
りませんでした。両親はな  
ぜそれ程までに感動した  
のか知りたがりました。」

「私はあまりうまく感情  
を抑制していたので、数カ  
月してむかつきをおぼえ  
るようになった時も妊娠  
を疑う事すらありません  
でした。けれども3ヶ月経  
ち、生理がない事に気づか  
ざるを得ませんでした。そ  
の時に病院に行つて、検査  
しなければならぬのは  
分かっていましたが、私は  
もう1ヶ月待ち、ついに年  
上の女友達に相談したの  
です。」友達は、婦人科に  
連れて行き、妊娠検査を受  
けさせました。と同時に性  
行為感染症の検査も要請  
し、「この事がドナにとって  
は幸運でした。ドナは二つ  
の感染症にかかっている  
と診断されましたが、両方  
とも治療でなおせるもの  
でした。そして、妊娠して

いる事も診断されました。  
「医師がそう言った時、私  
は何の反応もありません  
でした。彼は私を見、私は  
まだ若く、黒人で、早まっ  
た行動をしたと言いまし  
た。医師が、中絶の予約を  
したいかと尋ねた時、私は  
初めて泣き出しました。」

「走つてどこかに隠れ、  
全ての事から逃れたいと  
思いました。クリニックに  
二度足を運びましたが、ど  
うしても中絶出来ません  
でした。友達は両親に打ち  
明けるようすすめました。  
ついにある夜、ベットに横  
たわつていた時もうこれ  
以上この重荷に耐えられ  
ないと思い、両親の部屋に  
行つて妊娠していると告  
げました。父親はショック  
を受けましたが、母親は  
「知っていたわ。」と答えま  
した。母親は直感的に何か  
がおかしいと感じて、ドナ  
が打ち明けるのを待つて  
いたのでした。」

ドナはレイプと胸に秘  
めていた数カ月の全てを  
両親に打ち明け、心の重荷  
をおろしました。自分は両  
親の人生を台無しにし、名  
声を傷つける事をどれだ  
け恐れていたかを話しま  
した。しかし、ドナの両親  
は彼女を支え、無償の愛で  
応えたのです。彼らは教会  
を通じて、カウンセリング  
と援助をしてくれる機関  
に連絡を取りました。

ドナの父親が転勤にな  
り、家族でノース・キャロ  
ライナに引越した事で、  
妊娠のため世間への気恥  
ずかしさが軽減され、人に  
知られる事も少なくてす  
みました。家族はおなかの  
子を手元で育てる事に賛  
成でしたが、ドナは妊娠初  
期に養子に出す決意をし  
ました。

妊娠中赤ちゃんとの間に  
距離をおこうとしました  
が、終わりに近づくにつれ  
てそれはとても難しくな  
りました。この子は私の子  
だという気持ちが強くな  
ったのです。それでも、  
私はとても意志堅固な人  
間です。自分の赤ちゃんを  
残したまま、病院をさらな  
ければならない時になつ  
て初めて、私は辛いと感じ  
ました。いまでも小さな乳

母車の中の彼女が目につ  
かびます。「小さな娘を手  
放した落ち込みを乗り越  
えるのに数週間かかりま  
した。でも彼女は気持ちを  
持ち直し、自分の決心は正  
しかったと感じるようにな  
りました。」レイプとそ  
れによる妊娠は、私の人生  
の中で最も困難で辛い出  
来事です。けれども、私は  
自分の状況に対して対処  
した事を誇りに思ってい  
ますし、娘を誇らしく思っ  
ています。もし中絶を決心  
していたら、自分に起こっ

た事、した事に対する罪悪感をいつまでもぬぐい去れなかったでしょう。そしてそこで私の人生は終わっていたと思います。」

ドナは今、有能な若き職業人です。彼女は緊急妊娠センターの局長となって、難しい立場にいる若い女性を助け、自分達の人生に積極的な決断をする力を与えようとしています。

「自分を守れない時、最も無力感を感じます。特にレイプされる時、抵抗できない状況であると感じて、完全に犠牲者となってしまいます。私は子どもを生む決心をする事で自分の人生を取り戻す事が出来ました。状況をいつもコントロール出来るとは限りませんがそれに対する自分の対応をコントロールし、良いものを生み出していく事は出来るのです。」

## 「ノー」だけでは十代の性の答にならない

ヴァル・ファーマー博士

エイズの脅威により、現実の性生活における決断が新しい注目を集めています。セックスは突如として危険なものとなったのです。宗教的な理由からあるいは望まない妊娠への恐怖から、婚前交渉を避けていた時代がむしる懐かしく、慕わしく感じられま

す。しかし、自尊心を傷つけられたり、エイズ感染という致命的な結果を招くかもしれないというリスクでさえも、セックスの圧倒的なパワーと喜びの前には無力で、ティーンエイジャーや若者達の婚前交渉は今も減っていません。

「ノー」と言うだけではこれらの充分な抑止策とはなり得ません。若者達はなぜ「ノー」なのか、その答を知る必要があるのです。以下になぜ婚前交渉が「危険」なのか、主な理由

えって関係を壊す原因となる事もあります。

1 セックスは交際の判断力を曇らせる。 1 セックスは交際の判断力を曇らせる。

性的な親密さへの欲望

いったん性的な関係を保持すると、セックスはあまりに強力で魅惑的なので、すぐにそれが交際の中心となります。性的な親密さが本当の親密さにとって替わってしまうのです。性的欲望により、愛情の育つ機会が失われてしまいます。なぜならば、よりじっくりと互いを知り、徐々に相手の人生や人柄について学んでいくプロセスが妨げられてしまうからです。

2 時期が早すぎる。 セックスは結婚を早める。

一部の人々は認めたりませんが、性的な表現は愛と献身の究極の象徴です。宗教がそう説いていますが、社会はそれを期待し、信頼関係はそれに基づいています。愛情が十分に育ち、固まる時間がないと、早まった性的関係が

交際中にセックスするという事は、結婚への動機をある程度失う事になります。求愛の行為は肉体的に親密になりたいという欲求も関係しているからです。叶えられない欲求が秘密への好奇心と興奮をよび、愛情が育ち、献身が生まれる時間を確保するわけです。

3 未熟な性的関係は、悲しみと拒絶をもたらす。

求愛は責任を負う事が大切です。しかし負う必要のない責任もあります。相手と性的関係を持つていなければ、拒否されても傷にはなりません。

性は自己の本質に密接につながっています。性的関係を持った後に相手から拒否されると、自尊心と性的適性をまともに傷つけられてしまうのです。そ



して、次の相手との交際において気持ちの上で責任を負う事が難しくなります。

#### 4 婚前交渉は社会の

価値観に背く。

私達の社会ではセックスが無頓着に扱われてはいるものの、多くの人が婚前交渉は間違っていると考えています。本当にその様に感じているのなら、美しく楽しい思い出をなぜ罪悪感と後悔で台無しにしてしまうような事をするのでしょうか。

新婚初夜やハネムーンについてのロマンティックな考えも意味のある事なのです。それは愛情と献身の完成を象徴しているのですから。それは特別な思い出であって、無謀でせっかちな情熱のために放り出されるようなものではないです。このように、性的関係を結婚まで持

たなければ、結婚生活は信頼と献身に満ちたものとなります。

貞潔な求愛を行うカッブルは既に性的関係が神聖なものであり、結婚においてのみ持つものであるという考えを互いに伝えられているのです。セックスのある関係においてはこの原理は当てはまりません。

妊娠した事で結婚を余儀なくされ、あまり幸せでないスタートを切る結婚生活もあります。「結婚の決断をするのに、妊娠がどれだけ影響したのだろうか？ 決断のうち、どれくらいが愛情からで、どれくらいが策略に引っかけたのだろうか？」こんな思いが、試験や問題が起こった時、疑惑の影を落とします。二人の間にひびが入り、愛と献身の結婚生活は破局の危機にさらされま

す。たとえ結婚から何年も経っていたとしても。

#### 5 献身なきセックスは親密な関係を弱める。

献身のないセックスは親密な関係を築く能力をむしばみます。しかし、現在の社会の考えによって、私達は感情と肉体を切り離す事が出来る、つまり愛とセックスは別であると信じさせられています。

愛情と献身のないセックスは深みがなく空虚なものです。セックスは、どんなパートナーとであろうと遊びである事と、結婚生活の愛情と献身、親密さの最も崇高な表現である事を、同時に両立する事は出来ません。計算によって出来るものではないからです。セックスの際の深い感情を、まるで水道の蛇口をひねるように出したり止めたりする事は出来ないのです。誰でも性的関係を持つと、性そのものの意義を失ってしまいます。

### 「生命尊重の日」

#### 国民の集い

#### 講演会

「その1

#### 自然の中の人間」

は実験できないので、マウスで実験して、その高血圧の犯人を追っかけておられるのです。

7月2日、東京新宿、安田生命ホールにて「生命尊重の日」講演会があり、事務所より大石露子さんと大岡が参加いたしました。二つの講演をお聞きしましたが、先ず筑波大学村上和雄教授の「自然の中の人間」と題してお話を皆様と短くしてお伝えしたいと思います。先生は現在の人気ある学問、バイオテクノロジーを研究されています。先生のお話によると、つくば高血圧マウスや、筑波ノックアウトマウスの研究に取り組みながら、成人病と呼ばれている高血圧や脳卒中を人間で

生きたし生けるもの全てに遣伝子が働いている、私達の顔かたちが違うのは遣伝子暗号が違うので、これが読まれるようになれば、今の全体的、統計的な医学から、個人的な医学になるはずとの事。例えば、タバコを吸えば、肺癌になる率が高くなると言われているが、タバコを吸わなくても肺癌になる人がいるし、一方、タバコを吸っても、肺癌にならない人がいる。近い将来、一人一人の遣伝子暗号が読まれるようになれば、この人は肺癌になるから、タバコを吸わない方がよいと言われるような日がくるでしょう。

遣伝子の基本単位をDNAと言っただけで、人の遣伝子暗号は一人一人ちよっとずつ違って、1g

の二千億分の1にそれは書き込まれていて、間違いなく読まれている。その遺伝子は両親が書き込んだのではなく大自然が書き込んだ。

私達人間は生きているのは当たり前と思っっているかも知れないけれど、人間は生きている事が奇跡なんだ。このようなすばらしい体を与えてくれた大自然に感謝しながら生きれば、生き方がかわるのではないか。私達は子どもをつくると言っけれど、人間は最もシンプルな細胞、大腸菌一匹すら基からつくれない。まして子どもをつくる事は出来ない。子どもは大自然からの贈り物。

又、驚くべき事に、先生の計算では、一組の両親から違った70兆の子どもたちが生まれるのだから、兄弟姉妹がそれぞれ違うのは当たり前のこと。まさにONE & ONLYなのだ。

胎児を含めて人間の命

の大切さを伝えていきたいと結ばれた先生のお話を伺いながら、私は科学と宗教は相反するものではなく、その学問をきわめた人はその行き先のきわみで神に出会えるのだとはつきりと確信を抱く事が出来た今日の講演でした。

「文責：大岡滋子」

## 子どもを産むには若すぎる？

12才の少女が妊娠したので、中絶したい」と言ってきたら、私達は何と答えるだろうか。あるカウンセラーが、娘が妊娠して中絶しようとしているのを見つけた母親からの電話を受けた。

私の個人的な証言を分け合い、胎児の発達や中絶の手順、副作用に関する文献を少女に渡した後で、そのカウンセラーはあらゆる情報を明確に憐れみ深く説明した。しかし、少女の心は動かされなかった。数日後、別のカウンセラーが少女の家族に「沈黙の叫び」というフィルムを見せた。それは吸引器によって12週目の胎児が人工流産される様子を説明したものだ。少女は次の日に予定されている中絶手術をま

だ受けるつもりでいた。しかし。

かしそのフィルムを見た後、少女の父親は中絶に関わることはできないと、少女を診療所まで車で送っていくことを拒否した。

何日か過ぎ、カウンセラーはまだ中絶手術を受けようと考えている少女と密に連絡をとり続けていた。ある午後、カウンセラーと一緒にサンドイッチを作ろうと少女を招いた。サンドイッチを作

りながら、少女は妊娠に関する質問を始め、「私、子どもを生むわ」と言った。カウンセラーは大喜びした。

その後、数カ月の間、少女とカウンセラーは一緒に買い物へ出かけたり、食事をしたりした。8月27日陣痛と分娩を通してその少女に指導するというきわめて貴重な恩恵をカウンセラーは得た。そして、彼女の両親が見守る中、元気な男の赤ちゃんが誕生

した。次に少女が直面したのは、自分でこの子を育てるか、養子に出すのかという問題だった。彼女に子どもはあきらめて、養子に出すようにとは誰も言えなかった。それは彼女の子であり、彼女が自分で決断しなければならなかった。

4カ月後、その赤ん坊は養子に出された。養父母はやっと子どもを授かることができ大喜びだった。「私は正しい決定をしたのです」と少女は言う。「もし私が中絶手術を受けて、その後で今私が知っていることを知ったら、私はおそらく自殺したでしょう。」

その12才の少女は中学校へ戻り、学業的にも良い成績を続けている。彼女が中絶しようか、しまいかと揺れ動く心の中で、最終的に選んだ出産は私たちがなげに訴え続けている。子どもを養子に出す決断は

辛いものだったとしても、少女が今までできてきたことの中で最も情愛のあるものだ。

RTL1992

## 中絶とガン

妊娠すると女性の体にホルモンの変化が起こる事は誰もが知っている。だが、中絶でこの変化を妨害すると(初めての妊娠での中絶は特に)ガンになる割合が高まるという事はあまり知られていない。ニューヨーク市立大学で生体化学を教えるジョエル・ブライント教授が発表した、中絶とガンの相関性は今、マスコミの注目の的となっている。その例を簡単に説明しておこう。

### 1 乳ガン

中絶後、乳ガンになる確率は二倍近くなり、二度三度と繰り返すことに高まっていく。

### 2 頸ガン・

中絶経験者は未経験者の二・三倍も確率が高

く、二度以上の経験者では約五倍にもなる。

### 3 卵巣・肝臓ガン

これも同様に中絶回数との相関性がある。

## 母となること

人工妊娠中絶の決断は母親の生命が危ないからではなく、快適に過ごす事を求めて下される事が多いのです。女性は妊娠中、激しい嘔吐やむかつきを感じ、それに耐えられなくなる事があります。医者もそういった母親に同情します。でも医師は、患者が妊婦の場合、母親と子供という二人の患者を扱っている事を覚えておく必要があります。今日では、適切な医療処置によりほとんどの女性が安全に出産する事が出来ます。

私達は犠牲的な愛を奨励せず、学歴や職業的成功

こそが最も重要であると教えられています。子供は生活に「たまたま」入り込んでくる者であって、そのことで生活が乱されるような事があってはならないと考えられています。

しかし、この世に新しい生命を誕生させ、母となることは女性が果たしうる最も大切な役割です。それは職業的成功や物質的な成功をおさめる事よりはるかに重要なことなのです。また、その意味を理解している女性なら、子供のために自分の快適な生活や時間を犠牲にする事を厭いません。そういう女性は、自らの健康や快適さを二の次にして、子供のために最善を尽くすという難しい選択をも自らすすんでするのです。

K・Mラビエール

医学博士